



アクセシビリティ推進委員会

年報

2024

障がい学生支援の実施状況について

巻頭言

～諸規定の改正に寄せて

アクセシビリティ推進委員会が発足(2014年1月)して11年が経ちます。振り返れば、本学の障害学生支援は、重度難聴学生の入学(1999年)を契機に立ち上げた学生による情報保障ボランティア団体に始まり、そこに教職員有志も加わって2001年に設立したバリアフリー委員会の活動に源流があります。バリアフリー委員会は、大学の組織規程に位置付けられたものではありませんでしたが、障害学生支援の考え方や支援体制の基礎を少しずつつくり上げながら、障害のある学生の権利保障をしてきたとともに現在の支援体制の礎を築いてきました。その功績は忘れてはならない、と今あらためて思います。

一方、このかん社会情勢も大きく変化をしてきました。2013年に成立した障害者差別解消法(以下、法)がその一つです。この法は、国や地方公共団体などの行政機関と事業者、障害を理由とする差別を解消するための取り組みを種々求めています。このような動向は、必然的に大学組織としての責務をどうするかという議論を喚起し、2016年の法の施行前、バリアフリー委員会の学生たちとも時に激しく意見を交わしながら、2014年に大学の組織規程に位置付けたアクセシビリティ推進委員会を発足させました。見方によっては、バリアフリー委員会の発展的体制と捉えられるかもしれませんが、差別を解消する責任主体が大学にあることを明確にしたことと、そのための規程を有している点において当然のことながら異なります。

そして、さらなる転機は2024年4月の改正障害者差別解消法の施行でした。改正法は、事業者である私立大学においても合理的配慮の提供を法的に義務付けた点に最大の特徴があります。先述したように、本学はその合理的配慮という言葉がなかった時代から障害のある学生の教育権を保障する取り組みをしてきました。しかし、障害者の権利保障をめぐる少しずつ前進している制度改革の流れは、やはり私たちにもさらなる変革を求めているものと言えます。

こうしたことから、今年度アクセシビリティ推進委員会は関係する諸規程をすべて見直し、改正することにしました。規程は、障害学生支援を推進していく本学としての共通のルールを定め、教職員すべての共通認識をつくる土台になるものです。改正した規程は、「札幌学院大学障がい学生の受入れ及び支援に関する基本方針(以下、「方針」)」「アクセシビリティ推進委員会規程」「札幌学院大学障がい学生支援ガイドライン」であり、このうち1番目の「方針」は、他の学生との平等を基礎とした権利保障を実施するうえでの原則、すなわち「障害を理由とする不当な差別的取扱い」と「合理的配慮」の基本的な考え方を具体的に示した点において特に重要です。大学のホームページ上で公開していますので、ぜひご覧いただけるようお願いします。

言うまでもなく、規程は都度必要に応じて適切に改正されるべきものです。先の「方針」は今回で2回目の改正でした。ここであえて述べておきたいことは、情報保障ボランティア団体という学生による主体的な取り組みに始まり、バリアフリー委員会の活動で培ってきた“理念”なり“マインド”なりを、いずれの改正においても確かに継承しているということです。規程は、その理念なりマインドなりを具体的な行動の指針としてルール化したものとするならば、アクセシビリティ推進委員会が行った今回の改正は、これまで培ってきた理念をいっそう鍛えてルール化したものと言えます。今後もそうしたことを繰り返しながら、本学の障害学生支援の質を高めていきたいと思います。

また、今回行った諸規程の改正以外に、紛争の防止又は解決を図るための体制整備もあわせて行いました。具体的には、「札幌学院大学障がい学生に対する障害を理由とする差別の取り扱いに関する規程」の策定です。基本的には紛争という事態を生じさせないよう、普段の相談対応のプロセスにおいて丁寧な聞き取りと建設的対話による相互理解を図ることがもっとも重要なことですが、それでも解決が難しい場合を想定した体制整備は必要です。これも障害学生支援をめぐる昨今の情勢に応じた対応であることを最後に付言しておきます。

2025年3月31日

アクセシビリティ推進委員会委員長

松川敏道

目次

I	アクセシビリティ推進委員会の概要……………	p1
1.	アクセシビリティ推進委員会	
2-1.	アクセシビリティ・学生スタッフ	
2-2.	アクセシビリティ・学生スタッフ 支援別延べ人数	
3.	参考資料 障がい学生数	
II	合理的配慮の実施状況……………	p2
1.	情報保障（パソコンテイク・UDトーク・字幕修正作業・ノートテイク）	
2.	ポイントテイク（筆記代行）	
3.	通学・移動支援	
4.	授業配慮の依頼状況	
III	アクセシビリティの向上と学生支援の取り組み ……………	p4
1.	すきるupプログラム	
2.	社会で活躍している卒業生との交流会・卒業生の親との交流会	
3.	就職支援	
4.	静かな空間・Calm Down Roomの利用状況	
5.	学生面談の実施状況	
IV	アクセシビリティ・学生スタッフの活動状況……………	p6
1.	支援者募集と説明会の実施状況	
2.	テイク講習会の実施状況	
3.	式典情報保障	
4.	第20回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム	
V	アクセシビリティ推進委員の活動状況……………	p8
1.	関係機関の委員委嘱	
(1)	日本学生支援機構（JASSO）	
(2)	日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）	
2.	FD/SD研修会「障害学生支援がひらく共生のキャンパスー最新動向に学び、これからを見つめるー」	
3.	北海道障害学生支援コーディネーター座談会	
4.	研修会・会議等の参加	

I アクセシビリティ推進委員会の概要



1. アクセシビリティ推進委員会

・松川敏道（人文学部人間科学科／委員長）・藤野友紀（人文学部人間科学科）・田中敦士（人文学部人間科学科）・斉藤美香（心理学部臨床心理学科）・小内純子（法学部法律学科）・佐野友泰（心理学部臨床心理学科／副学長）・湯川郁子（経済経営学部経済学科）・ト部洋子（学生相談室カウンセラー）・辻由依（学生相談室カウンセラー）・樋田康宏（教育支援課）・島田尚規（教育支援課）・加藤祐司（学生支援課）・尾崎貴司（学生支援課）・水上真一（サポートセンター）・青木美保（サポートセンター）・近藤真樹（障がい学生支援コーディネーター）・藤原祐子（障がい学生支援コーディネーター）



2-1. アクセシビリティ・学生スタッフ

(人)

学科	経営	経済	臨床心理	新札幌計	こども発達	人間科学	英語英米文学	法律	江別計	合計
1年生	1	1	13	15	0	5	0	0	5	20
2年生	1	0	3	4	0	9	2	1	12	16
3年生	0	0	5	5	0	10	0	0	10	15
4年生	2	0	3	5	2	4	0	5	11	16
計	4	1	24	29	2	28	2	6	38	67

※2025年3月31日現在



2-2. アクセシビリティ・学生スタッフ支援別延べ人数

(人)

	パソコンテイク	UDトーク	ポイントテイク	字幕修正	通学介助	計
1年生	19	19	5	3	0	46
2年生	15	15	9	8	0	47
3年生	10	9	13	3	4	39
4年生	11	11	13	8	6	49
計	55	54	40	22	10	181

※2025年3月31日現在



3. 参考資料 障がい学生数

(人)

	聴覚	視覚	肢体不自由	病弱	発達障害	精神障害	重複	その他	
根拠書類のある学生	4	0	4	6	13	31	5	8	71
根拠書類のない学生	0	0	0	0	1	3	0	1	5
計	4	0	4	6	14	34	5	9	76

※数値は根拠書類の有無にかかわらず授業配慮の依頼など何らかの支援を行っている学生数。2025年3月31日現在。

Ⅱ 合理的配慮の実施状況



1. 情報保障（パソコンテイク・UDトーク・字幕修正作業・ノートテイク）

通常の授業における情報保障

前 期		1年生	2年生	3年生	4年生	計
情報保障を利用した学生数（人）		0	1	0	0	1
情報保障を行った科目数※1		0	14	0	0	14
※2	パソコンテイク	0	1	0	0	1
	UDトーク	0	1	0	0	1
	字幕修正作業	0	1	0	0	1
	ノートテイク	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0

※2024年9月30日現在

後 期		1年生	2年生	3年生	4年生	計
情報保障を利用した学生数（人）		0	1	0	0	1
情報保障を行った科目数※1		0	8	0	0	8
※2	パソコンテイク	0	1	0	0	1
	UDトーク	0	1	0	0	1
	字幕修正作業	0	1	0	0	1
	ノートテイク	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0

※2025年3月31日現在

※1. 1 科目の時間は90分、授業数は半期で15回

※2. パソコンテイク：パソコンを用いた文字通訳、T-TAC Caption接続による文字通訳

UDトーク：音声認識による文字通訳

字幕修正作業：音声付動画への字幕作成・修正、YouTube等を使用して文字通訳

ノートテイク：手書きによる文字通訳

※3. 情報保障の支援では、テイクの場合1時間1,550円の謝金が学生スタッフに支払われます。字幕修正作業におけるテイク時間としての換算は、（動画時間数）×4倍で時間計算を行いました。

※4. 今年度は、手話通訳やロジャーを使用しての情報保障は行いませんでした。



2. ポイントテイク（筆記代行）

	1年生	2年生	3年生	4年生	計
ポイントテイクを利用した学生数（人）	0	0	1	1	2
ポイントテイクを行った科目数※ ¹ 【前期】	0	0	7	3	10
ポイントテイクを行った科目数※ ¹ 【後期】	0	0	0	2	2

※1. 1科目の時間は90分、授業数は半期で15回

※2025年3月31日現在

※ポイントテイクでは、1時間1030円の謝金が学生スタッフに支払われま



3. 通学・移動支援

	1年生	2年生	3年生	4年生	計
通学介助を利用した学生数（人）	0	0	0	0	0
週あたりの登下校回数【前期】	0	0	0	0	0
週あたりの登下校回数【後期】	0	0	0	0	0

※2025年3月31日現在

※学外からの通学介助では、1回500円（学内の移動介助は1回300円）の謝金が学生スタッフに支払われます。



4. 授業配慮の依頼状況

[前期59名] 肢体不自由学生4名、発達障がい・精神障がい学生46名、その他9名

[後期60名] 肢体不自由学生3名、発達障がい・精神障がい学生48名、その他9名

Ⅲ アクセシビリティの向上と学生支援の取り組み



1. すきるupプログラム

すきるupプログラム（通称：すきっぷ）は、札幌市自閉症・発達障がい支援センターおがるの「Tossプログラム（Transition Ogaru from School life to Social life Program）」をベースとしており、「目標設定スキル」、「ヘルプを出すスキル（コミュニケーション）」、「感情コントロールスキル」、「スケジュール管理スキル」といった、4つのスキルに焦点を当てたプログラムである。

2024年度は前期および後期にプログラムを開催した。プログラムは、1クール9回、1回あたり90分であった。内容構成は「前期：①スケジュール管理スキル＋②ヘルプを出すスキル（コミュニケーション）」、「後期：①スケジュール管理スキル＋②感情コントロールスキル」であり、「目標設定スキル」は前期と後期両方のクールに取り入れた。

課題管理は修学において重要なスキルであるが、講義が始まり1～2か月経った時点で課題管理を開始することは時期的に遅いと考えられた。次年度からはプログラムの開始時期を早め（講義開始1～2週間後からスタート）、課題管理を早期から行えるよう工夫していきたいと考えている。また、次年度は、合理的配慮や支援を希望する学生全体に周知を行い、スキルの習得が有効と思われる学生がプログラムに繋がれるよう工夫を行っていく予定である。

スキルを試す場である現場スキルトレーニングについて、2024年度は学内生協に協力を依頼した。生協の実習ではリアルな職業体験が可能であるため、来年度以降も活用させていただきながら、学生が必要なスキルを獲得できる支援体制を構築していきたい。

【辻由依】



2. 社会で活躍している卒業生との交流会・卒業生の親との交流会

例年実施している、サポートセンター、キャリア支援課と学生相談室との共催企画による「社会で活躍している卒業生との交流会」を2025年2月15日に開催した。

卒業後に就労移行支援を利用し、社会人として活躍している本学の卒業生1名と福祉的就労を検討している学生、7名が参加した。卒業生から就職活動のときの不安や期待、今の職場での対人関係や仕事での工夫などが語られた。また、在学生は卒業生への質問内容を事前に準備し、当日は積極的に質問することができ、とても有意義な交流会だった。学生からの質問については、「就活するなか、障がい者枠で働くことを決めた理由」「就職が決まるまでの期間」「障がい者枠で仕事するきっかけや不安」等の質問があった。その質問に対して卒業生から「就労移行支援事業所は幅広い年齢層の方々が利用しており、それぞれのペースで就活している。職場ではそれぞれの特性や障がいを話す機会を設けており、お互いを理解し共に協力して働いている。仕事の内容は充実しており、障がい者枠であっても業務内容は簡単で楽な訳でなく、責任をもって働いている」等、具体的かつ丁寧に返答していたことが印象的だった。参加した学生から「実際に先輩から障がい者枠で働いている話を

聞き安心した」「将来の不安が減った」「障がい者枠の就労を視野に入れたい」「選択肢が増えて良かった」等の感想が寄せられた。卒業生からも「焦らず、自分のペースですすめていくと良いと思う。普段から感謝の気持ちを待つことが大事」と後輩温かい言葉もあった。学生にとって、卒業生との交流会が大きな心の支えになり、将来の選択肢のひとつとして、福祉的な就労がより身近に感じたようだ。

今年度は在学生の親からの要望もあり「社会で活躍している卒業生の親との交流会」を2024年7月1日に開催した。

卒業生の親2名、在学生の親、2名参加し、対面形式で開催した。卒業生の親より「困った時は誰かに相談し解決することが土台となり、困った時は上司や同僚へ相談し解決するようになりました。在学中は心配することもあったが、焦らず地道に進んでいたら大丈夫だと思います。札幌学院大学を卒業して本当に良かったと思います」と、在学生の親に話された。在学生の親から「そんなに焦らなくても良いと思いました。まず、卒業することが大切ですね」と、前向きな感想が聞かれた。

障がいのあるなしに関わらず、誰もがその能力と適性に応じた雇用の場に就き、卒業後も自立した生活を送ることができるように支援が必要である。これからもサポートセンター、キャリア支援課と学生相談室と連携しながら、学生の就労への不安軽減の対策、そして、地域への支援としてつなげて行きたいと思う。また、来年度も開催する予定。

【卜部洋子】

3. 就職支援

2024年9月27日／障がいのある学生のためのキャリアガイダンス（キャリア支援課主催）

※対面 参加学生4名

4. 静かな空間・Calm Down Roomの利用状況

前期利用延べ人数 17名

後期利用延べ人数 6名

5. 学生面談の実施状況

2024年度入学生 入学前面談 7名実施

※在学生については、前期・後期終了後に、支援の内容やニーズを確認することを目的とした、振り返り面談を対面、電話等で実施。

IV アクセシビリティ・学生スタッフの活動状況



1. 支援者募集と説明会の実施状況

- 1) 新学期学年別ガイダンスでのチラシ配布・支援者呼びかけ
新入生のみ実施（障がい学生支援コーディネーターからの説明） 2024年4月3日
- 2) 障がい学生支援者説明会
江別キャンパス 2024年4月25日（説明者：5名、受講者：21名）
新札幌キャンパス 2024年4月25日（説明者：5名、受講者：27名）



2. テイク講習会の実施状況

- 1) パソコンテイク講習会
新札幌キャンパス 2024年6月4日～2024年6月28日（※4週にわたり開催）
（講師10名、受講者22名）
江別キャンパス 2024年7月3日～2024年7月18日（※3週にわたり開催）
（講師7名、受講者14名）
- 2) ポイントテイク講習会
江別キャンパス 2024年6月3日～2024年6月26日（※4週にわたり開催）
（講師9名、受講者13名）



3. 式典情報保障

入学式	IPTークによる情報保障 （参加者3名）	2024年4月2日
学位記授与式	IPTークによる情報保障 （参加者4名）	2025年3月18日





4. 第20回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム

2024年12月7日、8日に茨城県つくば市で「第20回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム」が開催された。PEPNet-Japan設立20年の節目となる今回は、「PEPNet-Japan20年の軌跡と聴覚障害学生支援の未来」をテーマに5年ぶりに全面的な対面開催となり、全国から365名の方が参加した。

本学からはPEPNet-Japan運営委員である藤野友紀教員と障がい学生支援コーディネーター1名、聴覚に障がいのある学生1名とアクセシビリティ・学生スタッフ2名が参加した。

聴覚障害学生支援に関する実践・事例コンテストや教職員による実践発表では、全国の大学における聴覚障害学生への支援実践に関する情報交換が活発に行われ、企業・団体展示では聴覚障害の情報保障等に関する最新の支援機器の紹介があった。そのほか、基礎講座や分科会、セミナー企画があり、20周年記念企画として、PEPNet-Japanの20年間の歩みをまとめたスライドショーやPEPNet-Japanがこれまで果たしてきた役割や今後の課題や展望について話し合われた。また、学生交流企画では、全国の大学から参加した学生同士が障害の垣根を越えて交流を深めることができた。

このようにシンポジウムでは支援技術や知識の収集のみならず、本学の支援の現状や課題を俯瞰し再確認することができた。また、参加した学生は他大学の実践を通じて本学の支援活動に課題意識をもち、これまで当たり前だったコミュニケーション方法を見つめなおす機会となるなど、来年度の支援活動につながる大変有意義なものであった。

2025年2月14日、このシンポジウムを学内外の支援に携わる教職員や支援学生と共有するため、「第20回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム報告会」を本学会場とオンラインによるハイブリッド形式で開催した。

当日は本学の教職員や支援学生のほか、北翔大学と北星学園大学の職員、支援学生など19名の参加があった。報告会ではシンポジウムに参加した学生3名と障がい学生支援コーディネーターからシンポジウムの報告と本学の支援活動の現状や課題について発表があり、他大学への情報発信の場ともなった。

【近藤真樹】



Vアクセシビリティ推進委員の活動状況



1. 関係機関の委員委嘱

- (1) 日本学生支援機構（JASSO）障害学生支援委員

松川 敏道（任期：2024年4月1日～2025年3月31日）

- (2) 日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）運営委員

藤野 友紀（任期：2024年4月1日～2025年3月31日）



2. FD/SD研修会「障害学生支援がひろく共生のキャンパス

ー最新動向に学び、これからを見つめるー

2025年3月11日に、以下の内容で「2024年度アクセシビリティ推進委員会FD・SD研修会」を開催した。当日の参加者は本学教員20名、職員14名、他大学の教職員7名の計41名であった。当日参加できなかった教職員向けに、3月21日から5月6日までの期間限定でオンデマンド配信をしている。

講演は、障害の社会モデルを基本にした障害学生支援の考え方や最新動向についてであったが、そこで語られているエッセンスは、障害のある学生のみならず様々な学生たちのことを考える際にも応用できるものであった。

- テーマ：「障害学生支援がひろく共生のキャンパスー最新動向に学び、これからを見つめるー」

- 日時：2025年3月11日(火曜日) 14時00分から16時00分

- 講師：村田 淳先生 京都大学 学生総合支援機構・准教授
DRC（障害学生支援部門）・チーフコーディネーター
HEAP（高等教育アクセシビリティプラットフォーム）・ディレクター

- 対象：本学全教職員(非常勤講師、非常勤職員含む)・北海道障害学生修学支援ネットワーク加盟大学

- 実施形態：オンライン(Zoom)

- プログラム：14時00分 開会・学長挨拶

14時10分 講演

15時40分 質疑

16時00分 閉会



3. 北海道障害学生支援コーディネーター座談会

2021年度、北海道障害学生修学支援ネットワークのプログラムと一環として初めてコーディネーター座談会が行われ、4大学から6名のコーディネーターが参加しました。その後も、年1回のペースでオンラインにより実施し、ざっくばらんに話せる場として交流を深めてきました。今年度は2025年2月21日、北翔大学・北海道大学・北星学園大学・本学の4大学5名に加え、京都大学の村田淳先生にスーパーバイザーとしてご参加いただき、コーディネーター座談会が行われました。

障害学生支援における各大学での現状や課題などを共有し、意見交換を行いました。大学の規模や文化、コーディネーターのキャリアにより課題は様々で、自身を俯瞰して見る大変良い機会となりました。また、村田先生からは様々な大学の例や最新動向に基づく貴重なアドバイスをいただくことができました。

今までの繋がりをネットワークとして広げていくことはできないか、今後の座談会のあり方について検討していくことを約束し、あっという間の2時間の会を終えました。

【藤原祐子】



4. 研修会・会議等の参加

【研修会・会議出席】

<松川 敏道（教員）>

- 2024年5月22日 日本学生支援機構 第1回障害学生支援委員会
- 2024年9月13日 日本学生支援機構ヒアリング（拠点校について）
- 2025年2月20日 日本学生支援機構 第2回度障害学生支援委員会

<斉藤 美香（教員）>

- 2024年9月13日 日本学生支援機構ヒアリング（拠点校について）

<藤野 友紀（教員）>

- 2024年7月1日 PEPNet-Japan第51回運営委員会
- 2024年9月19日 PEPNet-Japan第52回運営委員会
- 2024年12月7～8日 第20回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム
～障害学生支援担当者 交流スペース アドバイザー
- 2025年3月11日 PEPNet-Japan第53回運営委員会 ・ PEPNet-Japan第7回総会

<佐野 友泰（教員）>

- 2025年1月23日 令和6年度障害学生支援大学長連絡会議

<近藤 真樹（障がい学生支援コーディネーター）>

- 2024年8月29～30日 AHEAD JAPAN 2024年度全国大会
- 2024年12月7～8日 第20回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム

<藤原 祐子（障がい学生支援コーディネーター）>

- 2024年8月29～30日 AHEAD JAPAN 2024年度全国大会
- 2024年9月11日 PEPNet-Japanリソース活用事業 第1回事業会議
- 2024年9月13日 日本学生支援機構ヒアリング（拠点校について）
- 2025年3月19日 PEPNet-Japanリソース活用事業 第3回事業会議
- 2025年3月27日 日本学生支援機構ヒアリング（障がい学生へ支援の現状について）

<水上 真一（サポートセンター）>

- 2024年9月11日 PEPNet-Japanリソース活用事業 第1回事業会議
- 2024年11月11日 PEPNet-Japanリソース活用事業 第1回実践報告会
- 2025年3月19日 PEPNet-Japanリソース活用事業 第3回事業会議



札幌学院大学アクセシビリティ推進委員会

発行日：2025年3月31日

江別キャンパス：〒069-8555 江別市文京台11番地

新札幌キャンパス：〒004-8666 札幌市厚別区厚別中央 1 条5丁目1-1

電話番号：011-375-8567（江別キャンパス）

011-802-8635（新札幌キャンパス）

メールアドレス：shien@ims.sgu.ac.jp

（担当事務局：学生支援課学生支援係）